凡そ享保十三四年頃の編述に係るものなるを知り、且つ著者は、同藩士田口五左衛門良純にして、諸種の舊記雜史家記の類より、老人口稱の史話をも沮く纂輯し、又自家の見聞を合せて隨筆躰に書き綴れるものなるを明らかにし得たり。本書は、參訂に際して新庄に關係無き煩小の事實を削除したるが以て、鄉土に關するもの多きは言ふを須ひざれども、本書記事は近世に於ける藩政の研究社會の狀況、世相風俗の變移等に就て考ふる諸種の資料を含み見聞瑣話の間に於ても、吉良上野介邸打入當時の談話、江戸城普請等諸種の趣味ある記事あるは喜ぶべし、尙附錄として仙北地方雜纂、田中宗親書上を載せたり。（非賣品、戸澤家藏版）（西田）

滿蒙新覽　三册　　福昌公司部調査編纂

本書は上中下三册三千七百頁の彪大なるものにして、大連なる福昌公司が邦人をして滿洲蒙古に關する普遍的智識を獲得せしめむとの意より調査部を設置して調査編纂せしめたるものなり。其の內容は滿蒙に於ける遠き過去より現在に及び博く搜りて有ゆる社會現象を集成したるものにして、關東都督府南滿鐵道株式會社の參調査報告並に專門大家の論著、學術雜誌新聞に出でたるものなり參考に供したりと云ふ。卷を分つこと五、章を立つること三十、第一卷は滿蒙の沿革を歷史的に叙述し、第二第三卷は滿洲の現狀を述べ、第四第五卷は滿蒙の生產力に就て論じたれば滿蒙開發經營の機運盛なるの今日、此の方面に志あるもの、一讀すべき好參考書なり。（大阪屋號書店發行　價二五、〇〇）

廣倉學宭叢書甲類第一、二集　二册

本叢書は倉聖明智大學の刊行に係り主として支那歷史に關する支那人最近の研究論著及び永樂大典本等より得たる貴重なる史料を集む尤も其の大部分は嘗て雜誌學術叢編に揭げられたりと雖も斯く叢書として刊行せられたるは便利なりと謂ふべし。今其の目次と著者を列擧せむに。第一集は敦煌古寫本周易王注校勘記（羅振玉）周書顧命禮徵（王國維）周書顧命後考（同）樂詩考略（同）祼禮權（同）五宗圖說（萬光泰）韓氏三禮圖說（元韓信同）爾雅草木蟲魚獸釋例（王國維）蒙雅（魏源）釋史考（王國維）毛公鼎銘考釋（同）史籀篇敍錄（同）倉頡篇殘簡考釋（羅振玉）漢代古文考（王國維）魏石經考（同）小學叢殘四種。事文考略（宋經畬）流沙墜簡考釋補正（王國維）魏漢博士考（同）秘書監志。大元馬政記。隨志。都て二十五種四十六卷、第二集は廣雅疏證補正（王念孫）江氏音樂叙錄（江有誥）古韻總論（同）諧聲表（同）入聲表（同）唐韻四聲正（同）西周金石文韻讀（王國維）唐韻別考（同）音韻餘說（同）操風瑣錄（劉家謀）殷卜辭中所見先公王考（王國維）同續考（同）殷周制度論（同）古本竹書紀年輯校（同）今本竹書紀年疏證（同）太史公繫年考略（同）宋史忠義傳王禀補傳（同）清眞先生遺事（同）元高

麗紀事。大元諸塑記、大元倉庫記、大元氈罽工物記。大元官制雜記唐折衝府考補(羅振玉)日知錄補正(李過孫)永觀堂海內外雜文(王國維)曲律(明王驥德)なり。〔以上那波〕

◉世界大戰史　前篇　　箕作元八編

五箇年の久しきに亙りし世界大戰中に於て動もすれば日々目前の戰局將來の豫測に注意を集中し、飜つて過去戰役全局の經過を統合的に觀察することを忘りし人々も、平和克復の今日に於ては この曠古未曾有の大戰を終始審さに全体として史的回想を試んとする希望の最も切なるものあるや必せり。今やこの彼我大活動の決算期ともいふべき講和會議の開かゝ、時機に際して本書の出でたるは確に一般讀書界の感謝の意を表する所なるべし。本書は箕作博士の下に各方面專攻の士が分擔して努力を傾注したる成果にして、全篇を二部に分ち、第一部には大戰亂の由來戰前の外交及交戰各國の內政、經濟財政を說き、第二部には陸海両方面の戰史や各時期並に各方面に分つて詳細に叙述し、加ふるに多數の寫眞版地圖や挿入し戰役一般の概況、各地戰鬪の經過を知得するに便ならしめたり。本文前後二部を合して千二百餘頁に達し、叙說平明を旨とし且興趣ある筆致を以てせり。もとより普く各方面に亙り最新の事件迄を包容して說述されしものなれば、資料の蒐集事の調査萬全を期し難く間々闕漏なきにあらざんも一般讀者に向つて惠澤を與ふること多大なるべし(富山房發行、價六、〇〇)

◉A.J. Carlyle: A History of Mediaeval Political Theory in the West. Vol. III. 1615

中世の思想學說をこの時期の歷史々實を背景として論述せる稀有の好著として有名なる本書の第三卷は十世紀より十三世紀に至る羅馬法學者及教會法學者の政治學說を叙說したる既出第二卷の後を承けて、第一部政治論に及ぼせる封建制度の影響第二部十一、十二両世紀に於ける政治學說を論述したり。吾人の特に興味を覺ゆしは、封建制度に就いて其劃一的成形を認めずして、不斷の發展變移を主張したる見解(Part I, Chapter I.)並に中世に於ける世界的帝國の思想が從來過重視せられしを斥け、所謂神聖羅馬帝國の觀念はこの時期に於て決して左程顯著なる主義思想として人心を支配せしものにあらざる旨(Part II, Chapter VII)を論ぜし點にあり〔以上植村〕

◉帝都と近郊　一册　　小田內通敏著

大倉發身氏出資の下に完成る聚落地理學(Siedelungskunae)に關するもの、緒說には「江戸及東京の都市の發達」「東京市の郊外地帶」として帝都の歷史的變遷を畧說し、特說、卽本論は「東京市の西郊」と題して、專ら西郊のみの「自然的環境」(境域、地形、水系、地質、土壤、氣候)「住民と居住」(人口、職業、居住